

第 20 回中華民国英語文教学(ETA-ROC)国際研究会参加報告

JACET 会長
早稲田大学教授
神保 尚武

11 月 11-13 日に台北で開催された ETA-ROC の 20 周年国際大会に出席した。大会テーマは *ELT in the Age of Globalization: Trends, Challenges, and Innovations* であった。

Featured Speakers は John Charles Alderson, Patricia A. Duff, Rod Ellis, Ken Hyland, Michael Locket, Andy Kirkpatrick, Stephen Krashen, Liu Dilin, Liu Jun, John McRae, Paul Matsuda, Tim Murphey, Paul Nation, Sun Yilin の 14 名で、多彩な顔ぶれだった。Alderson の *Innovations and Challenges in Diagnostic Testing* と Duff の *Socializing Identities, Ideologies, and Practices of Global Citizenship through ELT* が特に興味深い講演であった。

提携学会の発表者は小生の他に、JALT の Richmond Stroupe、FEELTA(Russia)の Larisa Krainik、KOTESOL(Korea)の Eric Reynolds、PALT(Philippines) の Aurelio P. Vivar、ThaiTESOL の Pragasi Sitthitikkul であった。小生は *Contextualizing the European Portfolio for Student Teachers of Languages (EPOSTL) to the Japanese Educational Setting* と題して発表をした。その他に日本からは JACET 会員や JALT 会員を中心に数件の発表があった。

ETA-ROC の前会長の Yiu Nam Leung が conference chair として大会を仕切り、現会長の Kai-chong Cheung も陣頭指揮をとり、大会を盛りあげていた。たいへん居心地の良い大会で、参加者も満足の様子だった。今後とも JACET と ETA-ROC の交流を深めていきたいと思う。

なお、ETA-ROC の毎年の大会に合わせて、鳥取大学の Kip Cates 教授を中心にアジアの大学生の交流の場として *Asia Youth Forum* を開催している。なかなか優れたプログラムなので学生に参加を奨励したい。